

< 参 考 資 料 >

- 災害救助の実務——1992年版／厚生省社会局施設課監修
- 阪神・淡路大震災——神戸市の記録1995年／神戸市
- 1995年神戸市災害対策本部民生部の記録／神戸市民生局
- 雲仙・普賢岳災害「災害から復興への試論」
／雲仙普賢岳火山災害救援 対策島原南高共同センター他
- 「救済はいつの日か」豊かな国の居住権侵害
／近畿弁護士会連合会編著
- 大震災100日の軌跡／神戸大学震災研究会編
- 大震災と地方自治——復興への提言／大震災と地方自治研究会編
- 災害救助法を徹底活用し、被災者の生活再建を支援するための緊急提
言 ／大阪弁護士会
- 震災問題訪米調査（1995. 8. 5～10）調査報告書
／自由法曹団
- 1995年6月9日付神戸弁護士会からの照会に対する兵庫県の回答
- アンケートによる仮設住宅（中央区）の実態調査報告
／「阪神・淡路大震災」中央区復旧復興会議
- 応急仮設住宅入居者調査速報／1996年5月兵庫県住まい復興推進
課
- 「借家で被災した仮設住宅の百世帯アンケート」／神戸新聞社
- 神戸弁護士会からの「仮設住宅についての照会書」に対する回答書
／兵庫県・神戸市
- 仮設住宅入居者意識調査（1995年12月、96年6月、96年1
2月）／朝日新聞社
- 「仮設住宅における孤独死のまとめ」
- 「都市の孤独死 その傾向と対策 阪神大震災から見えてきたもの」
／梁 勝則
- 苦闘の被災生活／神戸大学震災研究会編
- 神戸仮設住宅ネットワーク第二次要求書
- 1996年7月12日付け神戸弁護士会人権擁護委員会
からの照会に対する兵庫県及び各被災市町からの各回答
／兵庫県 神戸市 尼崎市 伊丹市 川西市
宝塚市 洲本市 西淡町 津名町 東浦町
- 1996年6月「恒久住宅への移行プログラム」／兵庫県
- 1996年6月20日発表「神戸のすまい復興プラン」／神戸市
- 広報こうべ
- 神戸仮設住宅ネットワーク世話人会報告書
- 「阪神・淡路大震災人権白書」／近畿弁護士会連合会編

ポートアイランド仮設住宅聴き取り調査

日 時 1996年6月15日

場 所 第3仮設住宅ふれあいセンター

出席者 第3仮設住宅 安田秋成 (自治会長)
竹内三郎 (民生委員)
宮下源章 (ふれあいセンター副会長)

第7仮設住宅 木戸啓之 (自治会長)

神戸弁護士人権擁護委員会第8部会

深草 徹

伊東香保

白 承豪

梁 英子

佐藤功行

《安 田 氏》

1 はじめに

私は、第3仮設の自治会の会長とともに、神戸仮設住宅ネットワークの代表世話人もやっております、だいたい40の自治会関係が結集しています。ネットワークは主に市との交渉をやっています。今まで市との正式交渉を2回やりまして、住宅の改善の問題やら、義援金の問題やら、住宅建設の問題やら、41項目の要求を出しまして、その回答を受けている状態です。

また県との交渉もやりまして、副知事との交渉をやったりしておりますのでけれども、事態は余り進まないという状態なんですね。

2 仮設住宅の構造上の問題点

まず仮設住宅を見ていただきましたらわかりますように、上は鉄板で、横がブリキなんです。そして、床下は吹き通し。だから、きょうも「うちのクーラー故障しとるんだろうか」と言うんですけど、今の午前中の段階でもクーラーきかないんです。そして、夜もきかないんです。「一遍業者を呼んだらどうだ」という話になっています。夏は暑く——天井からやけますからね、天井低いから、やけがひどいんですよ。横からもやけますし。そんなんで最初は角に当たった家の方は、喜んでおったんです。角だから一方は、隣がないから。ところが、角の家は、3面がやけますからね。

暑さ寒さは非常にこたえる。床下は吹き通しですから、下からはすき間風が入る。私らは被災以前も古い住宅に住んでいましたから、すき間風はあったんですけども、下からのすき間風というのは、ここへ来て初めて知った状態です。北風のひどいときには、下から風が吹き上がってくるという状態なんです。

埼玉県の県会と市会の議員の方が来られて、ここの事務長をやっている田中さんの部屋を見てもらったんです。2月の北風のひどい日だったのですが、立っておられたら下からスウーと風が畳の縁から入ってきました。びっくりされて涙を出して泣いて下さいました。「いろいろ聞いてとったけどこんな状態だとは知らなかった、仮設もちゃんと当たって、神戸の被災者はもうちゃんと正常な暮らしに入っていく一歩手前にあると思っと思った、それがこんな状態だったのか、仮設住宅がこんなものかということについても実際には初めて見て知った」とおっしゃいました。そういうことがありますので、冬寒く、夏は暑い。

もう一つ、建物で私たちが一番心配しているのは火事の問題です。

1棟が10軒なんですよ。火の回りが非常に早いんです。芦屋の火事の際に、これが実証されまして、ここで消防訓練を3回しました。ところが、ここは老人が多いものですから、火が出たら消そうなんて思わずに、家を飛び出して「火事だァ」と近所に知らせてくれと、そ

れを聞いた人がすぐ警報器を鳴らして、あるいは119番して、足腰の強い人が駆けつけてくるという格好にしてほしい。だから、早く避難してくれというのが消防署の結論だったんです。

これは、笑い話みたいなものですけども、火事が怖いから自警消防団つくろうかということで話し合いしたときに、元気な年寄りが何人いるか、竹内さんは元気だけれども、子供さんが障害者なんで、他にはというと結局3人しかおらんなあということになってしまったんです。大桑さんと私と田中さんと。それで結局、それやったら消防団つくれないということでやめたんです。

3 入居者の特色

それぐらい年寄りが多いのと体の弱い人が多い。ここでは病気の少ない年寄りが病気の多い年寄りに気配りして生活しています。だから、自治会の役をやっていただいている方も、完全に健康というんでなしに、病気を何年か前に持ったけど、今はちょっとおさまっておるとか、あるいは病気がほかの人に比べたら比較的軽いというのでやっておられるのです。病気の軽い人が病気の重い人の面倒を見ている、いわゆる老人同士が老人の面倒を見ているというのが現状なんです。

4 栄養失調、女性の場合

弁護士会から人権擁護委員会の先生方が来られましたので、私たちの人権が侵されておるんじゃないかと考えている問題について申し上げます。

ここでAさんが去年(1995年)の10月、栄養失調で亡くなったんです。Aさんには身寄りがないので、今は民生委員ですが、その当時は民生委員じゃなかった竹内さんの奥さんや、当時の自治会の副会長をやっておりました坂田さんという方がよう面倒見ておられたんです。

坂田さんの話を聞きますと、9月初めの段階から悪かったんで、いろいろ相談したけれども、相談の仕方でも知らなかったということもあるんですが、結局、福祉事務所と電話でやりとりしとったんですね。「医者から栄養失調と言われている」というと、「病気じゃないからまだ入院できない、生活費はあるか。」生活費は、当時、20数万貯金があったんで、そう言うたら、「本人が入院したり、あるいはまた貯金がなくなったら連絡ください」という話しでしかなかったというんです。

その後国勢調査の調査員が回ってきて驚いて自治会にも連絡し、竹内さんにも連絡して、ケースワーカーが来て、生活保護が取れたんです。やっと生活保護を取ったときは、もうほとんど本人は、生活保護を使って生活できる、つまり物を買って食べるという状態ではもうなかったというんですね。食べられない状態だった。北上病院に入院して、1週間ほどで亡くなりました。亡くなったときに貯金が19万円

近く残っていました。竹内さんや、ボランティアの人らが、本人がお金を残しておいたのは、恐らく後始末をしてほしいということも含まれておっただろうということで、葬式をし、35日もここでされました。

私は、そのときに、一つは、福祉事務所が貯金をどう見るのか。震災に遭うてわずか20数万円もっていたら、それで生活保護の支給が遅れるということになる。本人が当時もう栄養失調であることは坂田さんが言うのとったというんですから、栄養失調でありながら、わずかの貯金がある、それだけの理由で、本人が生活保護を受けられたときはもう間に合わないという問題です。

ことし(1996年)の3月になって、同じ症状の人が出てきたんです。Bさんという方なんです。竹内さんがBさんを1週間か10日ほど毎日車いすで第4埠頭の藤本先生のところに運んで点滴を受けさせたんです。Aさんの前例があるから、絶対そんなことさしちゃうかんということで頑張っておったんです。

私も、市の交渉のときに、そのことを山下助役に言うたことがあります。助役は、「仮設の状況はよく知っている、住民のことはよく知っている」と言うんです。「市の職員で仮設に入っておった人間がおるから、私はちゃんと知っておる」と。そこで私は、「一遍泊まりに来てくれ、1週間ぐらい生活してみてくれ」と言うたんです。1日ぐらいではわからない、生活して、音やいろんなことを聞きながら来てみてくれ」と言っても、「仮設はよく知っている」と余り言うものですから、「実は前に栄養失調で1人亡くなって、今度またそういう状態になろうとしている、みんなで一生懸命頑張っておるけど、もしその人が死んだら、骨を持って市長に会いに来る」と言うたんです。そしたら山下助役、すぐに顔色変えて立ち上がって、担当者に、「市民病院で診てもらえるように対応せえ」と言うんですね。竹内さんに相談しましたら、竹内さんは、かかっている藤本先生が、入院問題については手配をするということになっておるから、やっぱりそれでいこうということにしたんです。

Bさんはそうして入院しておられますが、竹内さんとこの奥さんが、カレーが食べたいというBさんに、カレーをつくっていったのです。僕、側で見ておったんですけど、7時前ですから、腹へってきますよね。でも2口ぐらい食べたら食べないんですね。そのときに、前にBさんの家の近くの夫婦の方が言っていたことを思い出しました。その奥さんが、ときどきBさんそこへ炊いた物を運びよったらしいんです。ところが、奥さんが「Bさんは私が気に要らないんと違うか」と。というのは、せっかく自分がつくっていった物をBさんが食べない、全部ほかしよるといので、持っていくのをやめたというんですね。何か感情的なものがあるんじゃないかということで。しかし、実際竹

内さんがつくっていったのを見ていましたら、箸つけて1口か2口食べたら、後は食べられない、捨てる方が圧倒的に多いから、持っている方は、気に要らんのではかしよるのと違うかと誤解していたのです。竹内さんの奥さんがカレーライスつくったり、好きな物をつくったりして持っていくのを見とってそれが誤解であったとわかったんですけど、そういう善意でやりながら、感情がもつれるという問題が起こることがあるわけです。

Bさんは入院されて、不幸なことに栄養失調だけではなしに腫瘍がわかって、恐らく病名は栄養失調ということじゃなしに、そっちの方になるんじゃないかなと思っとるんですが、当初は栄養失調です。

それからしばらくたったら、Cさんという人が、「海岸病院でカルテに栄養失調と書き込まれた」とガックリしておられました。結局、この方もほかの病気も恐らくあると思いますが、栄養失調でとにかく入院しておられます。Cさんの言うのには、息子から「お母さんが栄養失調なんて言われたら恥ずかしいわ。何でもっと食べない、食べたらええやないの」と言われるんだそうです。

そこで私、どうして女性の方が栄養失調で倒れるのかと考えたのです。見とったら、男の方が不規則な食事で倒れるのやないかと思うんですが、女性の方が倒れるので、いろいろと私なりに調べたり、聞いたりしてみたんです。

その結果、私の考えでは、女性の方は大体国民年金が多い。Bさんは厚生年金が入っとるみたいですけどね、収入がやっぱり低いんです。女性は4万から5万の国民年金で、その中でつましく生活していて、できたら少しでも残しておこうと思っているみたいですね。

聞きましたら、ここを出るときのことを考えているのです。「この中だったら衣類なんか買う必要ない。余り買わんでいいし、下着ぐらい買うたらそれでいいと思っとる。それにまた、家の中は段ボールばかりで暮らしておっても、だれも、あそこは段ボールで暮らしておるとはいわない、しかし新しい家に移るときには、せめて簞笥と水屋は買いたいと思っとるから、4万か5万の中でなるべく節約して残そう」という気配があるようです。

また「避難所でもらった毛布や布団なんかはもう渡していきたい」というのです。ほかすのか、残る人に渡していくかわからんけれども、「ここを出るときには、もうそれは引きずっていきたくない」「衣類やシャツの関係でも、ショールなんか、もらったのはええかげんもう着とるから、ちゃんと始末したい。そしたらやっぱり、つましくても新しい衣類も買い整えて、簞笥、それにテレビも新しいのを買いたい」とか、いろんな希望を持って蓄えておられる。女性の場合は、ここから出ていった後の生活設計を考えておるから、そういう格好で生活するんじゃないかなあと思います。

Bさんの場合、貯金を持っておられる。だから食べる金がなくて栄養失調というんでなしに、特に女性の場合は、そういう点があるんじゃないか。

5 男性の場合

男の人の場合は、もうちょっとある面では大ざっぱで、ハラハラするようなこともあるんですよ。ある棟の一番はずれの方ですが、私が角を通るたびにいつでもサケ焼くにおいがしよったんです。「あんたサケ好きなんですか」と言うたら、「サケ大好きや」ということです。「食事どないしとるんですか」、「朝はコーヒ、パンがあったらパンを食べる。なかったらそれでいいし、昼はダイエーに行つてうどん食べるか、インスタント食べるか、晩だけ御飯や」と。「おかずをどないしとんや」と言うたら、「ダイエーに行つて、サケ半匹を安く買ってそれを、1週間ずうっと食べると。それであきがきたら、メンタイコを食べる。メンタイコを食べて、合い間に塩こぶでお茶づけして食べたりしてる」というんです。「そんなんあかんで、せめて野菜ジュースでもいいから買って飲むべきや」と言うのと、「そうしますかなあ」と言うけど、そうした気配はないんです。

「あんた今度、保健所が来たときに絶対血圧計って健診を受けなあかんで」というて、4月30日に来た保健所の人に測ってもらったら血圧210あったんです。本人も保健所の人に、「生活どないしとるの」と聞かれて、「そんなんしよったらあかん」といわれたそうです。きっと塩気の取り過ぎなんでしょうね。それで結局、食生活改善ということを言われております。そんな生活しとるけれども、栄養失調で倒れたということはないんですね。これがちょっと不思議ではないんです。

それでも朝コーヒ、あるいはパンという人はまだいいんです。朝ビール、昼お酒、夜初めて御飯とお酒という人もいます。このDさんなんかはアルコール依存症になるんじゃないかと思つておるんですけど、本人は、意思が強く、自分は絶対に間には飲まない、朝ビール1本飲んだら昼まで絶対飲まない、昼にまたお酒飲む。だから、朝から血色はいいんです。それで晩だけ御飯です。

おかずつくるのが面倒くさいということをおもひながら、みんな言われる。おかずをちゃんと作っておられる方もおりますけれども、おかずは面倒くさいという人が多く、全体的に体力のおとろえがあります。Eさんは兵庫区の人で、去年(1995年)の11月ごろまでは、自転車で兵庫区のお医者さんに通ってました。その人4ヶ所行ってましたからね。ところが、ことしに入りましてから、自転車で行く気力がなくなって、北埠頭からポータライナー使つて行くようになったんです。しかし医療費の補助が12月末で打ち切られてしまった。それが打ち切られたうえに、今までは自分が自転車で行つたら交通費が無料だったんです

が、今度はポータライナーに乗らなきゃならないということで、往復800円近く要ることになりました。医療費を支払わないでいいときは自転車を通える体力だったのが、体力も落ちて電車を利用しなきゃならないときに医療費の補助打ち切りになった。Eさんは65才以上ですから、1020円だけで済むんですけど、4ヶ所行ったら4080円で、交通費を使ったら前のように行けない。4ヶ所行くのを3ヶ所に減らして、自分で判断して、一番軽いところを自分は減らすという格好にしておる。

6 節約の方法

そういうふうに、みんな、なるべくここから自立するときのために生活はつつましくして金を残したいという気持ちはあるんです。というのは、新しい収入の道は皆ほとんどないですよ。新しく金をもうけられるという方は少ない。そうすると、入ってくる金は限られておるし、使うのを締めなきゃならない。その場合何が節約できるかといいますと、ここでは文化費はほとんどの家がもともとゼロじゃないかと思うんですよ。映画へ行ったり、芝居見に行ったり音楽を聞きに行ったりする人は少ないんじゃないかと思うんです。だから、文化費は節約できない。衣料費も、ゼロに近いが、必要な下着類を買う、靴下を買う、そういう程度ですから、これ以上節約は不可能だろう。節約するとしたら、食費と医者代ですよ。これをどううまいことやるか、みんなそんなことばかり考えているのです。体力が劣えていきよる中で医者代と食費を節約したらどういう結果になるのか、目に見えていますよね。

7 将来の見通し

それともう一つは、ここから脱出していく方法がはっきりと煮詰められないですよ。家を再建して出ていく人、あるいはマンションの再建を待つ人、その人たちは恐らく3年ぐらいここにおらなきゃならない。しかし、その人たちはマンションの再建ということで待っていても次の行くところが決まっておるから、そう心配はないですね。

ところが、ここからどこへ行くかということも決まらない状況の中で、そして、日にちは1日1日進んでいくとなってきますからどうしても気持ちの中に焦りがある。仮設住宅の入居期間が今度1年延びて、みんなホッとほしたけれども手放しで喜んでいません。まあ1年はおれる。しかし1年延長をしたから、3年たったら公営住宅がちゃんと建って、みんなそこへ移れるという見通しがあるのかというと、それはまだない。だから、強い人は出ていこう、弱い人だけが残ったら、今行き場がない人たちは、自分たちが残るんじゃないか、弱者だけ残ってしまったら、これはもう自治会の活動や、人の世話の活動もだんだんできなくなる。そういう中で一体自分たちはどうなるんだろうかということを考えたりしよったら、結局、精神的な面での障害も

生じてくるんと違うでしょうか。

夫婦や家族が2人以上おる家は、夕方御飯食べるときにも、おいしいとか、あるいはまずいとか、きょうは暑かったなあといいながら食べられるから、ささやかながら団らんがありますよね。ひとりでおる人が御飯食べるにしても、お酒飲むにしても、何にも話し相手がない状況が長かったら、恐らく夜になると皆さん寝られない、寝つきが悪くなるということが生じるのじゃないか。寝つきが悪いから睡眠薬を使う。今、睡眠薬をよく使っている方がたくさんいらっしゃいます。お医者さんもまた、寝られないということを知っていて、仮設ですというと、精神安定剤をくださるんですけど、男の人はお酒に頼って寝るという格好です。お医者さんは、「今の安定剤は後遺症はありません、癖にはなりません」とおっしゃっておられるけど、それはまだわかりませんからね。おととしまでハルシオンでしたか、精神安定剤をくれよったのが、あれは問題があるというので、くれんようになりましたからね。だいたい後でわかるんですからね。しかし、今のところ、お医者さんに聞くと、安定剤を仮設の人には投与している人が多いと聞いています。男は酒という格好になってます。

こういう状態の中で、ここで、期間を1年延ばしたり、2年延ばしたりしても、それは決してその人の健康と安全にはならないのじゃないか。むしろ早く公営住宅を建てて、ここを脱出できる方法を示して欲しい。1年たった望む人はみんな市営住宅に入れるというならいいですよ。その目標がないまま延ばされたら、自分の健康状態は日に日に弱まっていく、年も取っていきますから、気力も弱まっていくだろうと思うんです。今の仮設での生活というのは、その人の自立の上でも、あるいは今後の生活設計を組む上でも、早く通り過ぎていかなきゃならないところだろうと思うんです。

そういう意味では、仮設の住民の恒久住宅は生存権の問題です。私たちは自立の土台がなくなっておるんですから、自立の土台は国や、県、あるいは市がつくるべきだと思います。

そういう点からでも、私たちは今どうしても公的補助、いわゆる生活に対する公的補助というのはどうしても出してもらわなきゃならない。それを出してもらえば、またみんな元気も出るだろうと思います。

生活の自立は、我々が自分でそれなりに考えてやりますけれども、家と職業というのがなくなってしまっている。このために男性の誇りもなくなりますよね。我々男だったら、仕事をしとってこそ、誇りありますけれども、仕事がなくなってしまう、そして住む家がなくなると、一家の大黒柱という意識を今男性が持っているかどうかは別として、これが人としての誇りも傷つけていく。

そういう点で、私は、仮設住宅というのは、単に夏暑くて冬寒いと、そういう問題以外に、人間性の破壊という問題が出てくるんじゃない

か。だから、1日も早くここから脱出していくというのが我々の生存権であり、また、私たちの人権問題だと思っています。そういう線で、自治会としてもいろいろとやっていきたいと思っています。

8 過密問題

さらに人権問題としては過密の問題があるんですが、第7仮設の自治会長の木戸さんからそのお話しをしていただきたいと思います。

《木戸氏》

過密問題というのは、1Kに4人から6人の家族が住んでいるという問題です。1Kというと6畳1間と食事のできない台所という狭い家ですね。そこは2人ということを前提として市がつくったものなんです。

何でそんなところに4人も、5人も、6人もいう家族が入っているかという、ずうとさかのぼって最初は抽選で仮設住宅をあっせんしたんですが、その抽選にずっと1次、2次、3次と漏れて、次に話し合いで入ることがあったんです。

普通2人以上3人、4人、5人という家族数でしたら2Kが当たるんですよ。しかし、その2Kが、ずっと北の方のしあわせの村のあんなところにあるんです。私が話し合いしたときには、あそこしか空いてなかったんです。ほかはポートアイランドに大量に1Kがあったということで、仕方なしに自分とこは大家族であっても1Kで過ごそかと考えた人がいた。

そうでないと仕事もできないし、日々の生活面というたらやっぱり仕事ですからね。山奥に行ってしまったんでは、年金だけで過ごす人だったら何とかいけるかもわかりません。近所で年金のお金をおろすところがあって、日にちの買い物が15分か20分のところであれば、人間というものは何とか生活できるものです。しかし、そこそこの年齢が若い、60才以下でしたら、生活というものを考えますからね。

ですから、自分は納得したんじゃないけども、一応、市の方にしたなら、納得して入ったんであろうと、こういうことで突っぱねるわけですね。そういうところは、今のところ一番最高が1Kで6人。私らは夫婦だけなんで、1Kで何とかいけているんですけども、しかし、同じ1Kの中に4人、5人、6人というのがたくさんおるんです。

それでもそんな中に、空き家がたくさんあるんです。空き家というても、最初から入ってない空き家があるんです。また、ほかに住宅があるけれども、一応抽選で当たったから荷物だけ置いとこかと、年に2回ほど、夏物、冬物と気候の変わり目だけに来て入れ替えていくというような人もあるんです。そういう人は、はっきり言うたら住宅に困った人ではないんですよ。それをまた市が知っているはずなんですけども、その空き家をずうと確保しているんです。何で確保しているかというたら、今まで避難所であったものが待機所になって、その

待機所に現在でも100何名おるといふふうに新聞で言われていますわね。だから、その人なんかを入れるために置いとると。また市が個人の所有地を借り上げて、そこに仮設住宅を建てて、1年という期限を切って入れているものですから、1年の期限が切れるとそこを引き上げないかと。そこの仮設を一応引き払うて、空いている方に入れるんだと市としては言うんですわね。しかし、まだ入ってないんです。十分空いているんです。そういうところに入れてほしいと再三交渉してるんですけども、まだいい返事が来ないんです。

6人家族の例は、上から8才、7才、5才、1才という子供がいて、夫婦という6人の家族なんですわね。どないして寝よるんかと、寝やるとこまで私見に行ったことないけどね。それが1Kです。

またほとんど大人に近い子供が3人と夫婦と5人家族で1Kに寝ている。なんとその隣が空き家なんです。きれいな空き家です。それを何で与えてくれないかということです、市の頭がかたいのか。

この人は、子供さんが別に住んでおったものやから、罹災証明がもう一つあるんです。罹災証明が二つあるので、もう1軒欲しいと言ったら、別個のとこしか話に乗ってくれないんですわ。だけど、バラバラで生活ができるはずがないから、隣が空いているのにうまいこといかないのが不思議でしょうがない。そういう融通のきかないところが、どうも納得できんところですね。

私のところは、第7仮設の東の方なんですけど、空き家もぎょうさんあるんですよ。3人は何とか辛抱してもらったとして、4人以上はね。4人で娘さんが2人、13才と15才の娘さん、それと夫婦2人で、それでプライバシーが守られるかというたら守られませんわな。4人の問題を出すと、6人、5人が一応解消せんことには4人には手がつけられへんというのです。しかし、5人も、6人も、4人も過密には変わりないんですよ。実際自分らでそういう生活をしてみればわかるんですがね。6畳1間に布団を四つ敷いて寝るといふことは難しいですよ。家具もまがりなりにも多少あるし、テレビもあるしね、畳1つ取られますわな。畳4つの部屋に4人、5人寝やんならん。ええ年ごろの17、8才の娘さんが2人も3人も夫婦と一緒に同居しておるといふことは異常な事態ですわね。そういうことを余り異常とは感じないんですわね。

深草 仮設ネットワークには、40ぐらいの自治会を集めておられるということですが、全県的には仮設住宅の自治会はどれぐらいあるんですか。

安田 仮設が288あります。そのうち自治会ができていないところもあるんです。自治会が何ぼできているかということについては名簿を我々が集めて回らんと出てこないんです。自治会名簿というのがないんです。恐らく各区役所ごとに取りに行けば出てくると思うんですがね。例えば、西区なら西区の自治会何ぼできておって、その名簿があるかという、まだ作成中とか何とかいう格好で出したがらないんです。ものすごく情報しぶるんです。

だから、私たちは今、仮設が建っておるところを一応自治会があるという見込みで、例えば、王子南仮設住宅自治会殿という格好で手紙を出すんですが、これは皆戻ってきます。だから、私らの想像では、6割程度（120から130）があるんじゃないかなんか思っているんです。かなり大きいところで自治会のないところがある。これは区役所もおかしいんですね。ふれあいセンターをつくるためには自治会がないといかんという前提だったんです。ところが、六甲アイランドの方は、自治会抜きでふれあいセンターが先にできておるんです。だから、ふれあいセンターさえあったら自治会は要らないという人もおるんです。ふれあいセンターは、協議会とか、推進委員を選出しよるけれども、ふれあいセンターというのは、ご承知のように国の基金と、県と市から金をもらってますから、運営権は行政が握っておるわけですね。日常的な運営権は我々が持っておるけど、建物から一切貸し出すという格好になってますからね。そういう意味で、ふれあいセンターというのは、ここでイベント組んだり、あるいは集会したりということに使うのであって、住民の要求を当局と話し合ったり、持ち込んだりするということではありませんからね。自治会は、自主的な住民の組織やから、ここでいろんなことが起こりましたら、市に協力もしますし、文句を言わなきゃならないときは文句も言いますし、要求のあったときにはこれしてくれと言いにいきますけれども、ふれあいセンターは、1年の運営費に200万金をもらって、これを運営するだけであって、自分たちで運営して、楽しんだり、何かしたりするという組織ですからね、行政の方としたら、自治会より、ふれあいセンターだけの方が楽なんですよ、率直な話。しかも、伝達事項や、いろいろな連絡はふれあいセンターに持ち込んでいけばしてくれるからね。自治会があったら文句言いに来る場合もありますからね。自治会がつくられて初めて自治会が協議会を選出してふれあいセンターを運営するんだから、自治会がなかったらふれあいセンターつくってくれないというこ

とだったんです。ふれあいセンター欲しかったら自治会つくれと、これは正しい指導だと思ったんです。ところが六甲アイランドでは、ふれあいセンターがあって、自治会がないんです。後から自治会ができたところもありますけどね。それがおもしろいのは、私のところのような所帯数130のところでも200万、400のところでも200万、ここは自治会が2つあるから400万はくれる。

ここなんかの場合は、もっと早く解決せなあかんのに、3月段階で、市は、私たちの交渉では、それまでの交渉では門前払いしよったのに、1部屋に6人という問題については解決すると言うたんです。ところが解決せずに実際に窓口を訪ねていった人が聞かれたら、1部屋7人以上と言うたらしい。2Kで10人おるところがあるんです。2Kで7人とか8人の人はけってしまえと。

木戸　　そういう4人、5人、6人が1Kでおるとするのは、第7のあそこに集中してます。他では問題が出てこんから、市からノホンとしておるんやと思います。全体からワアアと言うてきたら、これはえらいこっちゃという話になるが、言うてくるのは7だけやと。7の人が言うてきよるだけで、他は何も言うてきえへん。東だけで空き家は20軒やそこらあるんですよ。市から見た全く入ってない空き家というのはそんなにないかもわかりませんが、かぎをもらったままほっているというのがあるし、何か手がつけられへんねやね。

安田　　結局、住民の方に目を向けてないからこうなるんですね。最初空き家をなくそうということで、ここに空き家があるのに、わざわざ西神や北区の空き家に入れたのは、一遍人が入ったら空き家でなくなる。それで、政府に対して、もう何ぼ入りましたという格好で言える。ところが、空き家があったら政府が、何で空き家があるんだと責めてくる。それで、結局、遠いところの家にとにかく入れようということでしてしまったんですよね。うちなんかでも、恐らく5軒ぐらいは完全な空き家です。初めから人が入ってない。あるいは当たっておったけれども、入らないものだから、かぎ取り替えた。空き家の手続がありますよね、相手側の人にも手紙を出し、張り紙をして、何日以内に入らなければかぎ取り替えると言って、それで処分してしまっただけでかぎ取り替えておるのに、そのままになっておるんです。私も、過密の人、1部屋で、5人も6人もおる人はここに来たらいいじゃないか、あるとこう言うんです。そしたら、あっせんするときは恐らく田舎を言うやると、その人が嫌やと言うたら、あっせんしたけど嫌やというたから狭い仮設で辛抱せえと。

もう一つ市や、県が言うとするのは、最初は3人だったんだらう

と、しかし、当たってから親戚や、弟を入れて5人になっておるところがあるから、5人だからということですぐ与えることはできんと、ちゃんと調べて入る資格があるかどうかということを見なければならぬと。確かにそういうところもたまにはあると思うんです。しかし、1軒の家に5人も6人も入るのに他人を入れるなんて恐らく考えられないと思うんです。そういう口実をいうて、だから手間がかかるからというんですよね。私たちが交渉したときは、6人、5人というのは過密だということで交渉した。それに対して、前向きに検討しますと、あるいは具体的に検討しますと言いながら、窓口に行ったら7人だという。この間県に行きまして、県の局長に聞いたら、1Kの場合は3人と言いましたわ。親2人と子供と、それが限度と。2Kは何人かと思っとるんやと言ったら7人と。

深草 高齢者の1人、2人世帯は非常に多いわけですか。

安田 第3仮設は、単身者のひとり者の住まいは多いです。61才以上で、ちょっと最近減ったと思いますけど、最初は、61才以上のひとり住まいの家というのが、130のうち66軒あったんです。そして、65才以上の人たちが、出ていった人もありますから、今84人ぐらいという格好ですね。あとは、母子家庭、障害者のおる家庭ということになっとるんです。ここは圧倒的に年寄りが多い。しかも、2Kだけれども、ひとり住まいというのが半分ぐらいはおる。

木戸 それがまた不思議で、夫婦別姓というのがありますでしょう。夫婦別姓で1つずつもらっているのがある。ほん近くでね。それで片一方に荷物を置いて、片一方に住まいしている。そういう優遇されている人がある。

(女性) 私とこの母親が、地震で家が全部つぶれて、病院へ入院した時点で、家がなくては寂しがるといことで申し込んだんですが、入院しているからだめだと。あれもおかしいですね。

深草 仮設住宅で孤独死の発生する原因はどのように見ておられますか。

安田 ここは、まだ幸いにして孤独死というのはいないんです。というのは、だれかがのぞいておりましたからね。亡くなっておっても翌日わかりました。この方は夕方まで一緒にみんなと花づくりをして元気にしておって、その日おふろに入って、そのまま亡くなっておったんですが、明るく朝すぐ、出てこないから、おかしいな、出てけえへんなどいうて見に行ったら戸が閉まっておって、叩いても応答がないというのでかぎをあけて入ったらおふろで亡くなっておったというのが孤独死と言うたら孤独死というところなんです。

第6はこの間もあったんですかね。第6は800あるんです、仮設が1ヶ所に。800あったら大変ですが、この場合は、去年の年末から何件か出ています。亡くなってから3ヶ日目とか、1週間目とか。

例えば、うちなんかの場合でしたら、仮設そのものが小さいから目が行き届くということもあるでしょうし、民生委員も、大体ひとり住まいの人なんかはマークしてますからね、その人の姿が見えなかったり何かしたら、すぐ訪ねていくという格好をやっておるんで、今のところ孤独死という状態やなしに、ほっといたら孤独死になる人もおると思うけど。ただ、隣り同士で、いよいよぐあい悪いときは、安心ベルというのも持っておるんです。これは、ものすごく大きい音だと聞いておったけど、実際上は静かだったら両隣に聞こえる。テレビでもつけとったら、恐らく聞こえんのと違うかなと思うんですが、それがある。それが鳴り続けたら、寝静まったときに鳴ったら気がつきますからね。それと、壁を叩くようにしてある。これが善し悪しで、何でもないときに酔っぱらって帰ってきて叩いて、隣の人がびっくりして行ってみたら、ビール取ってくれと。そこで怒ってしまったり何かして、夜は叩くのは迷惑だと言われたりするのもあるんですが、隣り同士そういうのをとってますので、うちはそういうことは起こってません。

今、仮設の統廃合問題が出てるでしょう。統廃合計画を早く発表してくれと。私たちは、空き家があるけど、人を入れないというのは、結局統廃合の対象と考えると、そういう点ではどうなんだということを言うて、空き家があったら埋めてくれと。ここは、ポートアイランドの中でも割りと便利な方ですよ。

木戸 仮設は、出ていく人も黙っていつの間にかおらんようになる。黙っていつの間にか入ってきて、隣近所の知らん間に入っておるといふみたいな状態が多いんですよ。特にうちらの方は、あそこ空いとったのに、このごろ人が入るとるみたいやでと。近所に挨拶回るような人はまずないしね。出ていくときは、お世話になりましたと挨拶して出て行った人は、第7仮設の方で3、4人ありましたかね。

聞き取り調査結果

(調査期間)

1996年7月～8月

(対象)

神戸市内各所の応急仮設住宅入居者

(質問項目)

- 1 家族構成・年齢
- 2 旧住居
- 3 被災状況
- 4 震災前の職業、収入、生活状態、健康状態
- 5 現在入居している仮設住宅の名称、所在、構造、間取り、面積など
- 6 入居時期、入居に至った経緯。
- 7 構造、間取り、面積、設備についての評価
- 8 住環境についての評価
- 9 居住性についての評価
- 10 入居後に改善されたところの有無
- 11 入居後の職業、収入、生活状態、健康状態
- 12 転出の目処の有無
- 13 仮設住宅の統廃合で別の仮設住宅に移転しなければならなくなっ
た場合どうするか
- 14 神戸市、兵庫県、国に対する要望

1階入居者は、だいたいいい関係が続いているが、2階の人はバラバラ。近隣住民との交流は全くない。

買物、通勤、通学、通院などの生活には便利な所。

9 最悪。プライバシーがない。隣の物音が丸聞こえ。夫婦生活もできない。

10 階段に手すり、踏み板の滑り止め、風雨よけの囲いが取り付けられた(1996年春)。

公園で野球をする子供のボールよけのネットが最近設けられた。

11 夫の収入が半減したので、私もパートに出て、月額10万円程度の収入をあげている。

生活が厳しいので、震災前は一般紙とスポーツ紙をとっていたが、購読をやめた。

預金は全くない。

私はストレスがたまり、胃潰瘍になった。

12 全くない。

仮設住宅入居期限経過後は公営住宅に入居を希望する。家賃は、月額せいぜい3~4万円。将来高くなるとしても6~7万円までとしたい。

13 統廃合は困る。反対。

14 早く、公営住宅を建ててほしい。一刻も早く仮設住宅から出たい。

しかし、仮設住宅にいる間は、もう少しまともな生活ができるようにしてほしい。

近隣住民に、ここは公園だから、仮設住宅は邪魔だという気持ちがある。そういう点についても行政のほうで、啓発してほしい。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

陳述者 女性(68才)

1 一人(女)68才、夫とは死別、子供らは遠方にそれぞれ独立して居住。

2 神戸市中央区日暮通の賃貸アパートに一人住まいであった。

家賃月額1万8000円。6畳一間で共同トイレ、浴室なし。

3 全壊。家財道具も持ち出せなかった。幸い頭部を打った程度で、ケガはなかった。

震災後、1995年8月12日まで吾妻小学校で避難生活。

4 飲食店のパートで1ヵ月5~6万円の収入を得ていた。そのほかに国民年金を月額にして4万5000円程度もらっていた。当時から生活はギリギリだった。

健康状態については、腰痛があった程度で特に問題はなかった。

5 神戸市中央区生田町2丁目所在の生田町公園仮設住宅。

地域型一般仮設住宅。2階建1棟で各階12部屋ずつ。現在空き部屋は3部屋ある。

4畳半の部屋と6畳の部屋があり、単身者は4畳半、その他は6畳という区分けをすることになっているようだが、実際にはそのような区分けにはなっていない。

共同浴場は各階に1ヶ所ずつ。各箇所とも、浴室は男女用各1つずつ。トイレは各階に1ヶ所ずつ。各箇所とも男子小便器1つ、通常の便器2つ。

炊事場は、各階にあり、流しは4つずつ。洗面所は各階にある。洗濯場は一階外部。

本人の部屋は6畳1間に、一間半の押し入れ兼物入れ。

6 1995年8月13日入居。神戸市中央区内の仮設住宅の入居申し込みを続けたが当選しなかった。最終の第5次募集でようやく当選。

7 ぜいたくは言えない。前のアパートと同じ大きさなので不自由はない。しかし、玄関ドアや押し入れのふすまのたてつけが悪い。

夏に熱く、冬に寒い構造の建物である。

8 小規模の仮設住宅のため、ふれあいセンターがなく、また自治会もないので入居者どうしの交流がない。他の仮設住宅ではいろいろな活動があり、またボランティアの受入れなどもあるようだが、おいてきぼりになっているような感じがする。

近隣住民との交流は全くない。

買物、通勤、通学、通院などの生活には便利な所。

9 よく盗難があり、安心して住めない。

階段の滑り止めや雨よけがない、階段の下に水溜まりができ、歩きにくい、建物入口にひさしがない。

電話がないと不便だが、7万5000円程度もかかるので電話を引くことができない。

その他の住み心地については特に問題があるわけではない。ただ、公園の中にあるので、そう長いこと住めないのではないかという不安がある。

10 改善された箇所は全くない。

11 職業、収入、生活状態には変化はない。

健康状態については、心臓肥大や気管支炎が加わった。心臓肥大は精神的なストレスが原因のようだ。

預金は全くない。

12 全くない（遠方に住む子供から一緒に住んではどうかと言ってきてくれるが、迷惑をかけたくないので、今までどおり一人で暮らしていきたい）。

仮設住宅入居期限経過後は公営住宅に入居を希望する。家賃は、月額せいぜい2万円まで。それ以上では生活できない。

13 統廃合は困る。公営住宅に入れるまで、ここに居たい。

14 早く、公営住宅を建ててほしい。一刻も早く仮設住宅から出たい。

も私の面倒を看ながら私がいた病室で暮らしておりました。4月になり、病院から、そろそろ退院して母と一緒に出ていってくれと言われましたが、避難所はすでに受け入れてくれず、他に助けてくれる親戚の者もいませんでしたので、「鹿の子台の仮設なら抽選でなくてもすぐに入れる」ということを聞いてここにやって来たのです。

7 仮設住宅の広さや間取りについては、2人暮らしですので困るようなことはありません。ただ、隙間風が入ってくるので、冬は寒くて大変です。

8 買い物は、入居当初は店が遠くて困ったものですが、今は近所に来た「ミニコープ」で、食料の買い出しは出来るようになりました。日曜雑貨用品については今でも岡場まで行く必要がありますが、それほど頻繁に行くわけでもないので困るというほどではありません。

しかし、今でも2、3ヶ月に1回ほど灘区の病院まで足の治療に通っておりますが、通院には往復4時間ほどかかりますし、交通費も2000円ほどと大変です。

9 ここの仮設住宅の住み心地ですが、夜がこわいです。

というのは、鹿の子台の仮設は抽選がなくても入居できたことからか、仮設入居者に暴力団の人たちがいるのです。それで近所ではけんかがよくありますし、先々月の終わりころだったか、刃物を持って暴れた人がいて警察までやってくるという騒ぎがありました。

また、近くの第6仮設住宅には、暴力を振るわれて自宅の部屋をめちゃくちゃにされた人もいて、この人はこわくて引っ越していったようです。そんなわけで、日が暮れると、特に女性は恐くて外には出れない状態です。

もともとそういう荒っぽい人たちがこの仮設住宅には多く住んでいるようですが、それだけでなく、交通の便の悪い田舎に追いやられ、仕事もなく、ぶらぶらしてばかりいると、みんな気が立ってくるということもあると思います。

警察は、事件が起こらないと来てくれないということで、私たちは本当に困っています。

10 入居後、昨年6月ころにひさしとクーラーが付きました。

クーラーは有り難いのですが、電気代が払えないのであまり使っておりません。

11 こちらに来てから、私もなんとか仕事をしようといろいろ探してみましたが、神戸に今ある仕事は力仕事が多く、右足が動かない私には力仕事はできず、また交通費を出してくれないところもあってこの鹿の子台からでは交通費がかかりすぎてしまう場合も有ります。

また、仮設住宅の住民と言うだけで雇ってくれないということも有りました。仮設の住民はいつどこへ引っ越してしまうか分からないので、雇う方としても雇い難いということです。

そんなわけで、私はなんとかバイクには乗れますので、今は友人がやっている新聞配達の仕事を手伝わせてもらっています。手伝いだけですので、月に1、2万円ほどの収入にしかありませんが、毎月の水道光熱費くらいになればと思って続けています。

母は、働いておりません。

娯楽といえば、テレビやテレビゲームくらいで、遊びに行く余裕などありません。

先程申したように、2、3ヶ月に1回ほど灘区の病院に母と一緒に行くのですが、その帰りに街で食事をしたりするのが楽しみです。

現在の収入は、私の新聞配達の手伝いの分だけですが、父が亡くなったときにいただいた弔慰金と生命保険がありましたので、これまでそれでなんとかやってこれましたし、まだ500万円ほど残っておりますのですぐに困るということはありませんが、そろそろなんとかしなければならぬと考えているところです。

12 これからの転出の目処はまだ立っておりません。

8月20日までに公営住宅の第1回目の抽選の申込みができ、私たちは西神の方の住宅を申込みました。震災前にいた灘区の方が本当はよかったのですが、1回の抽選で1ヶ所だけ申込みが出来るということなので、なるべく当選の確立が高くて、かつ住みやすそうなところを選んだわけです。この第1回目の抽選で当選しても、実際に入居できるのは来年になるということなので、とにかく早くどこかに当選してここから出て行きたいです。

今回私が申込んだ住宅の家賃は8000円くらいになるということです。引越をする際は、他に手伝いを頼む人もいないので引越業者に頼むつもりですが、引越費用の援助があればいいと思います。

13 仮設住宅の統廃合の話は聞いたことが有ります。

統廃合で別の仮設住宅に移転することは、ここ鹿の子台の仮設の住民にとっては有り難いことです。鹿の子台は仮設の中では最も不便な所にあります。ここの住民は、不便なところに仮住まいをしており、先の見通しもなかなか立たないということで、そろそろストレスの限界に来ており、公営住宅にすぐに入れなくても、少しでも市街地に近いところに移転できればと考えている人が多いと思います。

ただ、移転するにも、これまで同じ仮設住宅でお付き合いして来た近所の方々とバラバラになってしまいますのは困ります。特に年寄りや一人暮らしをしている人たちにとってはそうです。これまで何とか助け合ってがんばって来た仲間が急にいなくなることは、一人暮らしの方などが孤独死に陥る原因にもなりかねません。

14 神戸市、兵庫県及び国に対する要望ですが、言いたいことはたくさんあるのですが、特に言いたいのは、空港建設や市街地の復興に使う金があるのなら、震災で家族や財産を失い、これから生活を立て直そ

5 現在住んでいる仮設住宅は、神戸市北区鹿の子台北町8丁目3-1北神戸第5仮設住宅です。プレハブ長屋の1戸で、間取りは台所3畳と、4畳半と6畳の畳部屋です。

6 この仮設住宅に入居したのは、1995年4月中旬でした。

震災後、近くの大開小学校に2日ほど避難して、その後兵庫中学校の避難所に移りました。そこで3ヶ月ほど過ごして、4月になり、中学校の方から、新学期が始まるのでそろそろ出て行って欲しいと言われ、加古川にいる兄のところで世話になることにしました。兄は、奥さんが震災で亡くなり、娘1人と2人暮らしをしており、私はなんだか居辛くなって、抽選無しですぐに入居できると聞いたこの鹿の子台の仮設に来たのです。

ここへ来る前に2、3回、兵庫区内若しくは近隣の仮設住宅の抽選に申込みましたが、どれも当たりませんでした。

7 ここの仮設住宅ですが、1人暮らしをしているので広さに問題はありません。ユニットバスではどうしても風呂に入った気がしませんが、仮設ですから仕方ありません。

困ったのは、畳の隙間からナメクジが部屋の中に入ってくることです。特に梅雨の時期は大変でした。今でも、畳と畳の間にゴムテープを貼っています。

8 買い物は今は近所にミニコープがありますので食料品に関しては困りませんが、兵庫区に住んでいたころよりこちらの方が値段が高いと思います。

ここの仮設に住んでいる人は誰もが思うことですが、市街へ出るのに時間がかかり、電車賃が高いのは不便です。

9 住み心地は、空気と水が美味しいのは有り難いです。私は本来のんびりした性格なので、せかせかしたところがなく、誰の束縛も受けない鹿の子台はその点では良いところです。しかし、飽くまで仮の住まいですし、仕事も見付からずここにずっといると気が滅入ってきます。

またこの辺は街灯が少なく、夜が恐いです。今年の4月くらいから痴漢が出るようになり、特に女性の夜の一人歩きは危ないです。

また、けんかや暴力沙汰が多く、鹿の子台のある仮設住宅に新聞の集金に来た集金係が、わけもなくこん棒で殴られるという事件も起こっています。

私自身も暴力の被害に遭ったことがあります。今年の1月ころでしたか、魚を台所で焼いておりまして、換気扇で煙を外に出していたのですが、隣の住民が「煙草の煙が家に入ってくる」と文句を言って来まして、その後、夜中に私の家のドアをどんどん叩いて、私がドアを開けると包丁を持って振り回すということがありました。

その人は、アルコール依存症に罹っているということで、現在入院中です。

鹿の子台の仮設住宅は柄が悪いということで評判です。実際、ペットの飼い方やごみの出し方などマナーが悪い人が多いです。

- 10 入居後に改善された点は、ひさしが付いたのと、クーラーを付けていただいたのと、道の水はけが悪かったのを直してくれました。クーラーは有り難いですが、電気代が払えないのでほとんど使っていません。

- 11 この仮設に入居してから、1995年12月から今年の2月ころまで西宮の方でガードマンの仕事をしたことがありました。しかしその後仕事が無く、現在は生活保護を受けており、月に7万9000円もらって生活しています。

体の調子は先程申しましたように体がまっすぐになりませんが、それ以外は今のところこれといって悪いところは有りません。

身の回りのことは自分独りで出来ます。

テレビはあり、新聞も取っています。

この近所の千代が谷の仮設住宅に震災前からの友人が住んでおり、そこへ行って話をしたりすることがあります。また、週に1回くらいは兵庫区の方へ行って、震災前に住んでいた辺りをぶらぶらしたり、垂水に住んでいる友人を訪ねたりもしています。

- 12 転出の目処はまだ立っていません。

第1回目の公営住宅の抽選には、垂水区の旭ヶ丘に応募します。

しかし、高齢者や障害者、母子家庭が優先されるでしょうから私が当たる可能性は少ないと思います。

いずれにしても仮設住宅を出たときのことをそろそろ考えています。

体がまだ十分に回復していませんが、お盆を過ぎたころからまた仕事を探そうと思っています。公営住宅に入るにも家賃や公共料金の支払いをするのにはどうしてもある程度のお金が必要ですから、仕事を見つけなければなりません。

これから入居する公営住宅についての注文ですが、どこに当たるか分からないのですが、公営住宅のリストを見ていると意外に風呂がついていないところが多く、風呂が無いのは困りますので、是非どの住宅にも風呂を付けて欲しいと思います。

- 13 仮設住宅の統廃合の話は聞いたことが有ります。

私としては、鹿の子台は確かに不便ですが、別の仮設に移転したいとは思いません。引越費用を出す余裕がありませんし、これまでの近所付き合いが急に無くなってしまうのは困ります。また、ここならまあまあ広い部屋を使っているのですが、市街地に近くなるほど部屋が狭くなっているようで、それは嫌です。

- 14 神戸市、兵庫県、国に対する要望ですが、この7月に入ってから鹿の子台の仮設では孤独死の人が出ました。60才くらいの1人暮らしの男性で、肝臓を患っており仕事が無くて、部屋で1人死ん

でいたということです。

まだまだ震災は終わっていません。行政は復興に向けてさまざまな政策を立てておられますが、もっときめこまかい配慮をお願いします。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

陳述者 女性（51才）

- 1 私は現在一人暮らしで51才です。27才になる息子が1人居るのですが、息子は3才のときに自閉症を発症し、以来現在まで治癒せず、震災前から神戸のある社会福祉施設で暮らしております。時々面会に行き、たまには自宅に連れて帰ることも有ります。主人とは10年以上前に離婚して、連絡は時々取り合っておりますが、離婚した際の約束で養育費等は一切もらっておりません。
- 2 震災前は、神戸市灘区の文化住宅に、やはり1人で住んでおりました。その家賃は月3万1000円でした。
- 3 この文化住宅は、震災で「半壊」の認定を受ける程度に損壊しましたが、幸い私自身それにより身体的には負傷しませんでした。息子は当時施設におり無事でした。
- 4 私は、離婚後は保険の外交員の仕事をしておりましたが、息子の世話や、私の親が病気になったり、ストレスと疲労がたまって体を壊し、1990年ころには仕事ができなくなり退職致しました。以来、知り合いの人の紹介でパートの仕事を時々やっておりましたが、定職には就けず、体調もずっと良くありませんでした。
息子は中学を卒業して以来ずっと施設にいますのですが、施設の自己負担分の費用は、息子が20才になるまでは私の収入に応じてその額が決められていましたが、20才になって以降は、息子自身が障害者年金の受給者になり、その中から徴収されるようになったので、私の負担はありません。その額は、年金が2ヶ月に1回15、6万円ほどで、その中から毎月3万4000円ほど徴収されます。
- 5 現在入居している仮設住宅は、神戸市中央区港島にある仮設住宅です。6畳と4畳半の畳部屋と3畳ほどの台所が有ります。押し入れは4畳半の部屋に1間半あります。
- 6 震災の時に住んでいた灘区の文化住宅は半壊の状態、なんとか住める状態だったので、しばらくはそこで雨露をしのいでいました。
仮設住宅入居の募集が始まってからは、やはり住み慣れた灘区内の仮設に申し込んでいたのですが、結局当たらず、ここポートアイランドに申し込んだのが当たったので、1995年5月ころここにやってきました。
- 7 ここの仮設住宅の間取りにつきましては、とりあえず住めるところに入れたので有り難いと思っているのですが、少し狭く感じています。荷物がどうしてもかさばってしまって、不要なものも多いのですが、

もう少し部屋が広ければいいなと思います。気になるのは音がやかましいことです。特に夜や早朝に、トイレ、シャワー、換気扇を使うのはとても気を使います。また、部屋の間隙からムカデやクモ、ハエがよく入ってきます。床の下ではネズミが走る音が良く聞こえます。また、時々ハトが部屋の中にまで入ってくるのがあって、ご近所でハトに餌をやっていらっしゃる方が居るようなのですが、迷惑しています。

8 買い物や通勤の便はまあまあですが、近隣関係は、私の場合よくありません。私は51才ですが、ここの仮設の住民としては若い方で、ご近所は私よりずっとお年寄りの方たちばかりで、若い私のことを妬んでいるのか、陰湿な嫌みを言われたり、いじめられたりすることがあります。

9 ここの住み心地は、贅沢を言えばきりがありませんが、何とかやっては行けます。

10 入居後改善されたところは、去年の夏ころに玄関のひさしとクーラーが付きました。他には台風で仮設住宅が飛ばされないように、ロープとそれを結び付ける杭が打たれました。また、今年になってからは、玄関とは反対側の6畳の豊部屋の方にもひさしがついて、これで南からの直射日光が入らなくなって、部屋の中が大分涼しくなりました。

11 去年の5月ころにこの仮設住宅に入居してからも体調が悪く、特に、半壊した灘区の文化住宅に住んでいたころ、水道が止まってしまって、給水車から水を汲んできて運んだりしているうちに、左肩を痛めてしまって、五十肩で肩が上がりなくなってしまうました。

また、震災後の混乱の中で、何の資格もない、しかも50才を過ぎた女性である私ができる仕事などありませんでした。ですから、私の収入は全く無く、息子の障害者年金を借りる形でなんとか生活してきました。

しかし、いよいよお金に困るようになり、なんとか働かないことには食べていけなくなりましたので、今年の7月から工事現場の交通誘導の仕事を始めました。この仕事で日当が8000円ほどもらえますが、仕事で使う靴やカバンを買い、また仕事に出ると飲み食いするのに結構お金を使ってしまったので、今のところ貯金は全くできません。

食事に関しては、現在1ヶ月に3キロほどの米の配給を受けており、これはとても助かっています。

テレビは古いのがありますが、新聞は取っていません。

娯楽は全く無く、クイズの雑誌を買ってきては部屋で1人で楽しむ程度です。

こんな私でも息子は無条件に私を頼ってくれますので、息子だけが今の私の生きがいです。

今の私の健康状態ですが、肩凝りがひどいことと、今年に入ってお

血及び下血し、やはり金沢病院に入院するようになりました。

その後ここポートアイランドの仮設住宅に申込んだのが当たったので、夫が1995年6月中旬に先に入居し、私は約1ヶ月遅れの7月中旬に退院して、ここへやってきました。

7 この仮設住宅の設備について言いたいことは、床の下に水が溜まっており、そのため夏のこの暑さで床が腐ってきており、畳も黒く変色してきております。

8 住環境については、心臓が悪い私に取りましてはポートライナーの最寄りの駅に行くまでに、歩いて30分かかってしまい、大変です。

私は、2日に1回須磨まで透析を受けに通院しているのですが、通院の日は朝5時にここを出て須磨まで通っており、交通の便は悪いです。

9 住み心地は、近隣の方が皆さんとてもよくしてくださるので悪くないです。

10 クーラーは、私たちが入居した当初から、部屋の中にすでに付いていました。今年の6月ごろ、6畳間の部屋の屋根にひさしがつきました。

11 昨年8月の下旬ごろ、私は再び体調が悪くなって、救急車で神戸市中央市民病院に運ばれました。そこで、また1ヶ月半ほど入院していたのですが、以来透析を受けなければならないということで、市民病院の医者の紹介で、新須磨病院で2日に1回透析を受けております。

夫は、現在も金沢病院に通院しております。

私も夫も、このように病気で体が思うようになりませんので、近くのふれあいセンターに行くのも億劫な状態です。

娯楽はテレビくらいで、新聞は読売新聞をとっております。

食事などの生活費は保護のお金でなんとかやっておりますが、そもそも私が心臓、腎臓を、夫は心臓、肝臓を患っており、2人とも厳しい食事制限を課されているので好きなものを飲み食いできませんので辛いです。

12 転出の目処は立っておりません。

先日の公営住宅の応募では、私が透析を受けている病院の近くの6階建て住宅を申込みました。

私は2日に1回必ず透析を受けなければ死んでしまうので、病院の近くでなければなりません。もし、歩けなくなっても、この鷹取の住宅ですと車椅子でも通院できますので、なんとしてでもここに入りたいと思っています。

この物件は、民生の人の紹介で応募しました。

13 仮設住宅の統廃合の話は聞いたことがあります。

しかし、まだこの仮設は2、3年は立っていると聞いたことが有りますので、私たちは公営住宅に移れるまではここに住んでいるつも

5 仮設高塚台住宅

積水住宅が設置したものであり、全部で107戸あり、現在80%程度が入居している。

2Kに風呂とトイレはセパレート型である。部屋の面積は5畳と4.5畳位。和室ではなく、絨毯がひかれている。

6 1995年6月。3回目までの募集は半壊以上という要件であったので、応募資格がなく4回目に応募して入居することができた。

7 2人家族で住むだけなら充分である。荷物の多くは古い家に残したままである。

8 勤務先は西区にあるので、通勤にはより便利になった。

買い物は西神駅前に行くこともあるが、値段は高いと思う。

母は、長田区の新長田眼科に週1回通院している。

母の聴覚障害のため、近隣では誤解される面もあったがかばってくれる人もおり、それなりに生活している。

9 悪くはない。

10 1996年7月に西側に庇をつけてくれた。入居後すぐにとゆが土管に接続していなかったので修理を求めた。

11 本人についてはあまり変わっていない。テレビも新聞もある。母はふれあいセンターで手芸や踊りをしている。

12 移転先はない。

西区にある公営住宅を希望する。

家賃としては4万円までの3DKを希望。

問題は、灘区に住んでいた婚約者の借家が全壊し、岩岡にある仮設に居住しているが、彼女は单身なので最大でも2Kしか当たらないとされている。自分は結婚をして母と3人家族で住みたいのでせめて3DKに入りたい。

今回の公営住宅の募集に当たっても、半壊以上が優遇されるため、本人は優先枠外で応募せざるを得ない。

13 今住んでいるところから転居を求められても応じられない。2度3度仮設を移転することは耐えられない。

14 岩岡の仮設に住んでいる婚約者がここの仮設内の空き家（何軒も存在する）に移転することを希望したが、拒否されて現在に至っている。

なぜ近くの仮設が空いているのに彼女が移転することができないのかわからない。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

陳述者 女性（64才）

1 女性64才 単身

2 東灘区本庄町 木造2階建アパートの10軒の2階に住んでいた。
家賃は 2万2000円。

3 1階はぺちゃんこにつぶれ、2階もばらばらになって、4時間後に

救出された。

頭にかすり傷（多分ガラスで切れたのだと思う）と左側を下にして身動きがとれない状態でいた間に余震の度にだんだん圧迫されて椎間板ヘルニアになった。

- 4 ヘルパーとして週4日働いた収入週に2万2500円と厚生年金月1万6500円の合計11万円程度が収入の全てであった。生活としてはかなり厳しい。10年以上前から高血圧で週2回医者に通っていた。
- 5 仮設高塚台住宅
積水住宅が設置したものであり、全部で107戸あり、現在80パーセント程度が入居している。
2Kに風呂とトイレはセパレート型である。部屋の面積は5畳と4.5畳位。絨毯がひかれている。
- 6 1995年11月5日。地震後2人の娘のうち家屋の被害が少なかった妹宅に引き取られ、このまま一生住んでもよいと言われていた。
一方姉の家族は、六甲アイランドの仮設に住んでいた。娘2人との意思疎通にトラブルがあって、単身妹宅を出て現在に至っている。
当初市に申し込みに行ったところ、加古川の尾上の松を薦められたが遠すぎると考え、市議員に働きかけた結果ここに入ることができた。
- 7 間取りや設備についての不満はない。ただ寝室のすぐ外側を他人が通るのが今でも怖い気がする。
- 8 買物は西神中央へ行く。ヘルパーの勤務先は、地震前同様東灘区にあるので極めて遠い。
深江の杉原医院に月2回通っている。
ここにも親しい人が2~3人できてそれなりに楽しく行っている。
- 9 まあまあ
- 10 なし
- 11 1996年2月から岡本でのヘルパー週2回が復活した。1回5500円をもらっているが、交通費が往復1440円かかる（バス200円、地下鉄360円、JR160円）。
厚生年金と合わせ月5万円に満たない収入でしかない。
プロパン、水道、電気、電話など1万円近くかかる。
葬式費用として契約していた生命保険金を解約して130万円程度入手した。実は生活保護を受けようとして相談したところ、まずそれを解約することを薦められた。
- 12 転出の目処はない。
家賃は2万5000円くらい、間取りは2K、東部の公営住宅を希望する。
- 13 大変困る。
- 14 元の近くに安心して早く住めるようになりたい。家賃補助は非常に

9000円ある。

文化、娯楽としてはパチンコに行く。テレビも新聞もある。

12 転出の目処はない。

東部の公営住宅を希望する。

家賃、入居方法に関する希望は、行政の定めるところによる。

13 絶対に動かない。

14 義援金の使途が不明確である。補償をしてほしい。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

陳述者 女性（47才）

1 私の家族は、夫（53才 卸売市場勤務）、長男（23才会社員）、長女（21才会社員）、二男（17才高校生）の4人家族です。

2 震災時は、兵庫区西柳原の自宅に住んでいました。

3 自宅は、全体が15センチメートルほど傾き、全壊判定となりました。倒壊することはなかったので幸い家族に怪我はありませんでした。住み続けることは危険でしたので、地震から1ヶ月以上、自宅前の駐車場にテントを張って暮らしました。

1995年2月末に近くの門口公園に移転し、仮設住宅に当選するまで、ここでテント暮らしをしました。3月には全壊の自宅を解体し、更地になりました。

私たち家族には犬がいたので、避難所やマンションに入ることはできませんでした。今の仮設住宅も、犬の飼育は認められていないのですが、迷惑のかからぬように、気をつけて飼っています。犬は私たちにとっては家族の一員ですから、手放すことなど考えられず、夜中に吠えるときには、まわりの迷惑を考えて散歩に連れ回りました。当時、捨て犬が増えたと聞きますが、動物を飼っていて被災した人は、行き場もなく本当に困っただろうと思います。

また、賃貸物件は、震災前、近くに完成間近で家賃月額7万円予定と聞いていたマンションが、震災後月14万円で入居募集されました。それでもすぐに満室になっていましたが、私たちは、全壊家屋と再築家屋の2重ローンを支払う必要がありましたので、とてもそのような賃貸物件に入ることはできませんでした。

4 夫は、震災前と同じ職場です。

私は、震災でパート先が被災して職を失い、この仮設に来てから知り合いに紹介してもらった近くのプロパン会社で、集金業務などを担当しています。

子供は震災当時、長男が専門学校を出て求職中、長女が短大を出て就職先が内定していました。

2人とも、春から職に就けるかどうか心配しましたが、今は幸い職場を得て働いています。

収入は、月額で夫婦合わせて手取り約40万円ほどでしたが、これ

は今でも変わっていません。子供達には家にすこし給料を入れてもらっていますが、これは将来に備え、子供のための貯金にしています。

5 構造・間取りは、プレハブで、6畳、4畳半、台所3畳、押入1間、押入半間です。

6 1995年8月にここに入居しました。

それまで兵庫区の会下山住宅などに2～3回応募しましたが、すべて落選しました。

夫の職場が中央市場（兵庫区）ですから朝5時に出勤しなくてはならず、交通の便がないため、遠方の仮設住宅には応募できませんでした。

ここも、神戸大橋が復旧するまではポートライナーも動かず、通勤に苦労しましたが、他の仮設に比べると立地はよいほうです。

7 なんにもかも応急の仮の宿で、「評価」以前の状態です。

ここで大人5人が暮らすこと自体、過密も度を越しています。

実は、この隣の部屋は、すでに前の入居者が引き払っているのですが、鍵を市に返しておらず、この人から鍵をもらった別の仮設住宅の人が、荷物置き場に使っています。こういうことを市に知らせるのも告げ口のように厭なので、知らせていません。

けれども、隣が空屋ということで使用を願い出ても、市は「1世帯1戸の原則なので、お宅が過密でも、隣を使ってもらうわけにはゆかない」との回答です。

ポートアイランドの第7仮設住宅では、1Kに4人以上の世帯が7件もあるのに、これまで、隣が空いても2部屋貸してもらえた例はないと聞いています。

市は、退去者の鍵の返還には非常にルーズで、移転後も荷物置き場にしている例は放任しながら、本当に困っている超過密の世帯に対しては、杓子定規に「1世帯あたり1戸の原則」をふりかざしており納得がゆきません。

部屋が余っておらず、皆が同じ状態ならば、我慢するしかないときらめもつくのですが、一部には退去者からこっそり鍵をもらって荷物置き場にし、自分の部屋は1人で広々と使っている人がいるという不公平な実態があります。

市は「1世帯7人を超えなければ、たとえ1Kでも2部屋を貸すわけにはゆかない」としているそうですが、家族の年齢構成、子供の性別などによって事情はそれぞれなのに、一律に「1Kに6人までは我慢せよ」というのでは血の通わない行政といわれても仕方ありません。

うちは、5人の寝床としては広さがまったく足りず、子供も親も、みんな雑魚寝状態です。

布団以外、満足な収納スペースもないので、服は吊しっぱなしです。

長女は職場にきちんとおしゃれをして出かけることもできず、毎日Tシャツにジーンズといった格好です。年頃なだけに、かわいそうに思います。

また、食事は手間をかけた献立はできません。流し台は食器を少し置けば一杯で、配膳台もなく、食器を置く場所もないからです。毎日、ごった煮をてんこ盛りにして、90cm四方の狭いちゃぶ台から取り分けて頂く生活が続いています。これは作り手にとっても、食べる者にとっても、長期にわたるとかなりのストレスです。質素でも、手間ひまかけた家庭の味が懐かしく思えます。

- 8 買物や、通勤・通学・通院には便利な立地です。同じポートアイランド仮設住宅でも第1、第2は騒音がひどいと聞いていますが、ここは比較的静かです。近隣関係も、お互い助け合って声を掛け合い、良い関係ができていますので、有り難いと思っています。

高齢者の世帯が多いなかで、うちには何かと世話役が回ってくるようになりますが、できるだけお引き受けしてお役にたてればと思っています。

ただ、仮設住宅の年齢構成は高齢者の割合が非常に多く、いかにも不自然です。もっと自然な共同体ができるよう募集方法を考えられなかったのかと思います。

- 9 これまで述べましたように、「住みごこち」という以前の状態ですので、「評価」といっても何も申し上げることはできません。私共にとっては、ここを出られる日が決まっているので、今を過ごせるということです。

- 10 市から、「暮らしよいように自助努力される分には手をくわえてもらってかまいません」といわれていますが、たいした手は加えていません。市に改善を申し入れたこともありません。私たちは若いので風呂の入り口の段差などはしのいでいます。

手を加えたのは、衣類掛を壁に取り付けたこと、暑いので簾をかけたことくらいでしょうか。仮の宿だと思っているので必要最小限のことにとどめています。

- 11 入居後も夫の職業は同じで、幸い収入もかわりません。

けれども全壊になって取り壊した家のローンを、無理をして全額支払いましたので、老後のための蓄えがゼロになりました。

新しい家も建てなければならぬので、経済的にはぎりぎり精一杯の状態、余裕も、老後の見通しありません。

主人は白髪が増え、体重が減りました。けれどもしんどいと口に出してしまうと気持が萎えるので、胸にしまっていて頑張っています。

私は、震災前から子供のPTAの父兄でつくるクラブで卓球をしていたのですが、こちらへ移ってからも、地元の港島小学校の卓球クラブに参加させてもらっています。運動で身体を動かしてストレスを解

消しています。

子供達は、音楽を聞いたり1人になれる場所もなく、高校生の二男は友達が訪ねて来たがるのを「絶対に来るな」とって呼びません。

本来は友達を家に呼んだり、親に話せないことなど友達や兄弟と話したりする年頃なのでしょうが、ここでは無理だと思います。

- 12 前にも述べたように、住居が全体に15cmほど傾いてしまいました。ジャッキアップをして修繕しても以前の強度は望めず、費用も新築とさほど変わらないとのことで建て替えを決め、震災後まもなく準備にかかりました。

話がさかのぼりますが、私共の家は、もともと2戸1の住宅で築30年以上が経っていました。1993年に隣家を買って1戸として使用することにし、総費用2700万円をかけて全面改装しました。このとき、築年数が古かったので銀行でしかローンを組めず、銀行から1500万円を借入れました。あとの費用は、かきあつめたお金でなんとかしました。

それから2年もたたないうちに地震で全壊となり、ローンだけが残りました。もっとも、老朽化した建物が多いため、ごく近所に亡くなった方が2名おられることを思うと、改装で建物を補強していたために命拾いをしたという気がします。

金利のことがありますので、再築の資金は住宅金融公庫で借り入れたいと思いましたが、土地には、すでに改装のときの銀行ローンで1番抵当がついていたため、公庫での融資は受けられないことがわかり、非常に困りました。

致し方なく、子供達の結婚資金として準備していたお金等、何もかも一切をはき出して銀行ローンを返済し、抵当権を抹消しました。

ところが、ようやく融資のことは目途がついたと思ったのですが、今度は建築確認の問題が生じました。土地が奥まった場所にあるため、接道の関係で、隣地所有者から通行地役権の確認書を取るよう言われました。

私は、再築を決めるに際して、まず市役所に行き、「この土地に建物がたつのかどうか」と確認したところ、「大丈夫です」と言われていました。ところが、いざ建築確認をとる段になって、「隣地所有者の印鑑が必要」といわれて立ち往生しました。これまで問題なく隣地を使用し、所有者は決して通行を認めないような人ではありませんが、たいそうな書類に印鑑を押すとすると躊躇するのが人情です。それだけでなくもお世話になっているのに、そんな無理なことを頼めません。役所は何でも書類書類といいますが、実際にはそうもいかないことがあるのです。こういう事情を説明し、「建物は建つと言ったはずではないですか」とつめより、ようやく建築確認をとることが出来ました。

場所が奥まっているので、再築建物は3階建にできず、建坪は24

坪から15坪ほどになりました。

公庫からの借り入れは、2400万円ほどの額になりました。これから一生懸命働いて返済するつもりですが、返済だけで何も残りそうもないので、定年後の生活が心配です。また、以前にもまして病気や事故が不安で、保険にもかなりの出費が必要になりました。

- さらに再築費用には、消費税がしっかりと課税され、100万円以上の税金がかかります。これだけあれば台所の資金分に充てられます。
- 13 復旧住宅の家賃が低く抑えられるということですが、必死で自助努力を続けている私たちに対しては、何の救済もないことが悔しくてなりません。

これから地域が復興してゆくためには、私たちのように働ける世帯が力を回復することが、非常に大切だと思います。

ところが自力ではいあがろうとする私たちに対して、行政の援助は殆どありません。これでは、県や市の復旧計画を聞いても素直に喜べません。

せめて、前のローンの利息分だけでも援助する、新築費用の消費税を免除するなど、自力復旧を後押しするための国の政策があってしかるべきだと思います。

米軍基地への日本政府の支出額を聞くにつけ、私たちは、国に見捨てられたという気がしています。

先日国会議員が「視察」に来られましたが、きっかり10分間だけの「視察」に多数のマスコミが殺到し、大騒ぎでした。いったい10分で何ができたのか首を傾げたくになります。

県や市は勿論ですが、とりわけ財政的権限のある国は、もっときめ細かい震災対策を真剣に考えて欲しいと思います。

